

(19) コマツナ
ア 殺菌剤

農 薬 名	成 分 名	系 統 名	FRAC コード	適 用 病 害 虫 名						注 意 事 項
				白 さ び 病	根 こ ぶ 病					
アミスター20フロアブル	アゾキシストロビン	ストロビリン	11	◎						
オラクル顆粒水和剤	アミスプロム	その他	21		非ア					非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
ネビリユウ	フルスファミド	土壌殺菌	36		非ア					非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
ピシロックフロアブル	ピカルトキサ	その他	U17	非ア						非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
フロンサイド粉剤	フルアジナム	その他	29		◎					
ライメイフロアブル	アミスプロム	その他	21		非ア					非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
ランマンフロアブル	シアゾファミド	その他	21		非ア					非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
リドミル粒剤2	メタラキシル	アミド	4		◎					
ユニフォーム粒剤	アゾキシストロビン・メタラキシルM	混合剤	11・4		◎					

(19) コマツナ
イ 殺虫剤

農 薬 名	成 分 名	系 統 名	I R A C コード	適 用 病 害 虫 名							注 意 事 項	
				ア ブ ラ ム シ 類	ア オ ム シ	コ ナ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ヨ ト ウ ム シ 類	ヨ ト ウ ム シ 類	ネ キ リ ム シ 類		
アクセルフロアブル	メフルミゾン	その他	22B			非ア	非ア					非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
アグロスリン乳剤	シヘルトリン	ピレスロイド	3A	非ア								非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
アクタラ粒剤 5	チアトキサム	ネオニコチノイド	4A	◎								
アクタラ顆粒水溶剤	チアトキサム	ネオニコチノイド	4A	◎								
アニキ乳剤	レピメクチン	マクロライド	6			非ア	非ア					非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
アフーム乳剤	エマクチン安息香酸塩	マクロライド	6			◎						
アデイオン乳剤	ヘルトリン	ピレスロイド	3A		◎							
アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン	ネオニコチノイド	4A	非ア								非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン	ネオニコチノイド	4A	非ア								非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
アルバリン粒剤	ジノテフラン	ネオニコチノイド	4A	非ア								非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
スタークル粒剤	ジノテフラン	ネオニコチノイド	4A	非ア								非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
ウララ D F	フロニカミド	その他	29	非ア								非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
オルトラン粒剤	アセフェート	有機リン	1B	◎								
カスケード乳剤	フルフェノクスロン	IGR	15		非ア	非ア						非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
コテツフロアブル	クロルフェナピル	その他	13		◎	◎						
スピノエース顆粒水和剤	スピノサト	スピノシン	5		非ア	非ア			非ア			非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
ゼンターリ顆粒水和剤	BT	生物農薬	11A		野	野	野	野				野：【野菜類登録】
チューンアップ顆粒水和剤	BT	生物農薬	11A		野	野		野				野：【野菜類登録】
ダイアジノン粒剤 5	ダイアジノン	有機リン	1B							◎		
ダントツ水溶剤	クロチアジソン	ネオニコチノイド	4A	◎								
ダントツ粒剤	クロチアジソン	ネオニコチノイド	4A	◎								
ディアナ S C	スピネラム	スピノシン	5		◎	◎	◎	◎				
デルフィン顆粒水和剤	BT	生物農薬	11A		野	野	野					野：【野菜類登録】
トランスフォームフロアブル	スルホキサフル	その他	4C	非ア								非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド	ジアミド	28			非ア						非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
プレオフロアブル	ピリタリル	その他	UN			◎	◎					
プレバソソフロアブル 5	クロラントラニリプロール	ジアミド	28			非ア						非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
マツチ乳剤	ルフェメロン	IGR	15		非ア	非ア						非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
マトリックフロアブル	クロマフェノジド	IGR	18						非ア			非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド	ネオニコチノイド	4A	非ア								非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】
モスピラン粒剤	アセタミプリド	ネオニコチノイド	4A	非ア		非ア						非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】

(19) コマツナ
ウ 土壤消毒剤

農 薬 名	成 分 名	RAC コード	適 用 病 害 虫 名							注 意 事 項	
			コ ガ ネ ム シ 類 幼 虫	セ ン チ ユ ウ 類	ネ グ サ レ セ ン チ ユ ウ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類	萎 黄 病				
ガ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤	タツメット	I:8F					◎				
ク ロ ー ル ピ ク リ ン	カルピ°クリン	I:8B		◎			◎				
ク ロ ピ ク フ ロ ー	カルピ°クリン	I:8B					◎				
ク ロ ピ ク 8 0 ド ジ ョ ウ ピ ク リ ン ド ロ ク ロ ー ル	カルピ°クリン	I:8B		◎			◎				
テ D D C 油 剤 D	D-D	I:8A	非ア		非ア	非ア					非ア：【非結球あぶらな科葉菜類登録】

エ 病害虫防除法（コマツナ）

（ア）萎黄病 *Fusarium oxysporum*

（防除のねらい）

6～7月の高温期に発生が多く、始めに葉の基部の片側が葉脈に沿って網目状に黄化する。病葉は奇形し、黄化萎凋し、のち株枯れを起こす。発病株の維管束部は黄色～褐色に変色する。病原菌は罹病残渣や土壌中で生存し、伝染源となる。伝染源の除去と無病的な環境の整備に重点を置く。

（耕種的防除法）

- （1）発生ほ場では連作を避ける。
- （2）耐病性品種を選択する。
- （3）ほ場の排水対策を徹底する。
- （4）土壌を他に落とさないよう留意して、被害株をほ場外に除去する。
- （5）調整残渣も含め、植物残渣をほ場に残さない。

（化学的防除法の注意事項）

既発生ほ場では土壌消毒を徹底し、消毒後病原菌を持ち込まないよう留意する。

（イ）炭疽病 *Colletotrichum higginsianum*

（防除のねらい）

葉に発生し、淡緑色～淡灰緑色、水浸状の小斑点を生じ、乾燥すると淡灰緑色～淡灰黄色のややくぼんだ明瞭な小円斑となる。降雨などにより多湿条件が続くと病斑部は水浸状に拡大する。病原菌は罹病残渣や生育中のアブラナ科野菜、雑草で生存し、分生子が風雨で伝搬され、蔓延する。一度発生すると防除が困難な難防除病害であるため、まず発生させないこと、すなわち菌の持ち込みに注意し、発生源の除去に留意する。

（耕種的防除法）

- （1）連作を避け、アブラナ科以外の作物と輪作する。
- （2）ほ場周縁部を含め、雑草防除に努める。
- （3）排水対策に努め、多湿条件にしない。
- （4）発病株は除去し、ほ場に残渣を残さない。

（ウ）白さび病 *Albugo macrospora*

（防除のねらい）

葉と葉柄に発生し、葉の表面に淡緑色～淡黄緑色の小斑点を生じ、その裏面の中央部に乳白色のやや盛り上がった菌体を形成する。病原菌はアブラナ科野菜の罹病残渣で生存し、伝染源となり、発病後は分生子が飛散し、蔓延する。降雨が続くような環境下、排水不良は発生を助長する。土壌消毒を行い、予防～発生初期の防除が重要である。

（耕種的防除法）

- （1）連作を避け、アブラナ科以外の作物と輪作する。
- （2）ほ場の排水対策に努める。
- （3）発病葉・株は除去し、収穫後に残った被害茎葉は持ち出し処分する。

（エ）苗立枯病 *Rhizoctonia solani*

（防除のねらい）

幼苗の地際部の胚軸部が褐変腐敗し、くびれ、倒伏枯死する。土壌温度20℃以上で夏まきに多発しやすい。菌糸や菌核が罹病残渣や土壌中で生存し伝染源となるので、土壌消毒を行う。排水不良は発生を助長する。

（耕種的防除法）

- （1）発生ほ場では連作を避ける。
- （2）ほ場の排水対策を徹底する。
- （3）特にほ場で調整を行う場合は、調整残渣も含め、植物残渣をほ場に残さない。

(オ) 根こぶ病 *Plasmodiophora brassicae*

(防除のねらい)

根に大小不同のコブを生じ、地上部の生育が不良となる。コブが肥大すると、維管束は発育不良となり、根部からの水分補給が十分でないため、晴天の日中には茎葉が萎凋する。土壌中の休眠胞子が第1次伝染源となるため、殺菌剤による土壌処理を行う。

(耕種的防除法)

- (1) 発生ほ場からの土壌の移動を防止する。
- (2) 石灰資材による酸度矯正を行う。
- (3) ほ場の排水対策に努める。
- (4) 連作を避け、イネ科やダイコンなどのおとり植物を輪作する。

(カ) アブラムシ類

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

} ハクサイの項参照

(キ) コナガ

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

} キャベツの項参照

(ク) ハスモンヨトウ

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

} ハクサイの項参照

(ケ) アオムシ (モンシロチョウ)

キャベツの項参照

(コ) キスジノミハムシ

(防除のねらい)

成虫は3月頃から出現し、多発期は6～8月である。残暑の厳しい年は、秋の発生および被害が大きい。アブラナ科野菜の栽培地域、連作地、暖冬及び6～7月に雨が少なくと多発する傾向がある。幼虫加害を防ぐための土壌処理剤の施用と、産卵防止のための薬剤散布を併用すると防除効果が高い。

(サ) マメハモグリバエ

(防除のねらい)

本県では平成4年に発生が確認された侵入害虫である。幼虫は多くの野菜・花卉類を加害する上、短期間で増殖し、有効な薬剤が少ない難防除害虫である。幼虫の食害痕は白い線状で成虫の産卵痕および吸汁痕は白い小斑点になる。多発すると防除効果が上がりにくいため発生初期のうちに防除に努める。また播種直後の初生葉に寄生した幼虫は葉を食害した後、茎にも食入し、枯死させるため播種後1～2週間は注意が必要である。

(耕種的防除法)

- (1) 残渣を適切に処分する。
- (2) 寒冷紗や防虫ネットを設置し侵入防止を図る。
- (3) 施設では黄色粘着資材等を利用し、成虫を誘殺する。
- (4) 被害葉を早期に処分する。

(シ) ネグサレセンチュウ類・ネコブセンチュウ類

(防除のねらい)

(耕種的防除法)

} サツマイモのセンチュウ類の項参照